

●インタビュー



(株)ジュオン 鈴木大生さん

昨年12月から、工業団地内の施設で、木質バイオマスからエタノールを製造する実験を開始しています。実験は、現在のところ順調に進んでおり、事業化を目指して最適製造条件を研究しています。

ジュオンの木質エタノール製造方法は、他の地域で行われている硫酸を用いた方法とは異なり、酵素・酵母を用いた方法で、他に例を見ないものです。化学物質である硫酸を用いないことから、環境負荷も少なく、

里山再生と林業活性化を目指して

また実験後の残渣物を広く有効活用できるといった特長があります。

実験の原料として庄原の未利用間伐材を使用していますが、放置されていた木質バイオマスを有効活用できる取り組みとして、里山再生や林業活性化の契機になればと考えています。

わたしは海を臨むまちで生まれ育ちましたが、よく「山をきれいにする、海がきれいになる」ということを聞いてきました。今回の取り組みで庄原の森の手入れが進み、さらにはふるさとの海がきれいになってくれればとも思っています。



プロジェクト 01

木質バイオマス活用プロジェクト

木質バイオマス活用プロジェクト

豊富な森林を木質バイオマス資源として有効活用することで、新産業創出や林業振興、さらには循環型社会の構築と里山再生を実現します。



農業自立振興プロジェクト

「農業による定住社会の復活」を目標に、「儲ける農業」(農家所得10%アップ)を目指します。



観光振興・定住促進プロジェクト

庄原が好きな人を増やし、短期滞在から季節滞在、定住者の増加、定住社会の復活につなげます。

今後の課題

来年度以降は、新産業創出の一つであるペレット製造の事業化を推進するため、ペレット需要量の拡大を図る必要があり、本年度に引き続き、ペレットストーブの導入や新庁舎のペレットボイラー整備などを進めていきます。

里山再生を目指すためには、植林や育林、木材の搬出、加工、販路確保など川上から川下まで一連の流れを構築する必要があります。

また、バイオマスの利活用推進と低コスト化に向けて取りまとめた「庄原森の産業団地構想」の核となる製材事業の実現については、事業性や採算性などを十分調査・研究していきます。

これまでの事業成果をさらに推し進め、エタノールなどの製造プラントの建設や木質バイオマスの需要拡大、フォーラム開催などによる周知や意識醸成など、引き続き木質バイオマスの利活用を推進します。

問い合わせ 企画課政策企画係 ☎0824-73-1114

取り組みと成果

本年度は、「広報しょうばら」1月号でお伝えしたバイオエタノールの実証実験をはじめ、次の3つの柱を中心に取り組みました。

- ①化石燃料から木質バイオマス燃料への転換と木質バイオマスの利用・需要の拡大
 - ・市内小学校21校にペレットストーブを導入
 - ・東城温泉リフレッシュハウス東城にチップボイラーを導入
- ②新たなエネルギー利用技術の検証
 - ・バイオエタノール実証実験施設の整備
- ③市民意識の醸成
 - ・「しょうばらバイオマスフォーラム2007」の開催

特集

進めています!

3つのプロジェクト

地域資源を生かした経済構造づくり

市は、平成18年3月に「みどりの環^わ経済戦略ビジョン」を策定し、市の「強み」である農村・林業資源を背骨にした経済構造づくりを進めています。

このビジョンの中では、「木質バイオマス活用プロジェクト」、「農業自立振興プロジェクト」、「観光振興・定住促進プロジェクト」の3つのプロジェクトを個別に立ち上げ、ビジョンの目的を達成するため、集中的・横断的に取り組みを推進しています。



プロジェクト **02**

農業自立振興プロジェクト

野菜作りが生きがいに

昨年まで勤めていた会社を定年退職し、以前から好きだった農業を本格的にやりたくて、野菜を中心に栽培を始めました。

できるだけ種から育てるようにはしていますが、以前は種を購入しても自家消費



●インタビュー
須田 正さん(東城町)

分には多過ぎるので、余った種や作りすぎた野菜は廃棄してしまいました。そのため、種代にでもなればと気軽な気持ちで(株)庄原市農林振興公社への出荷を始めました。

しかし、いざ出荷を始めると、予想外によく売れ、公社から翌年の作付け依頼(契約栽培)が来るようになり、野菜作りの励みになっています。



①須田さんが栽培した黒豆

②東城町小奴可に整備された農産物集出荷場

③④公社直営の直売施設「比婆高原発ヒバゴン生鮮便江波店」

取り組みと成果

農業自立振興プロジェクトは、「農業による定住社会の復活」を目標に、豊富な地域資源を最大限に活用した取り組みを行っています。また、農家所得の10%アップに向け、平成18年8月に設立した(株)庄原市農林振興公社を中心に、農産物の販売などに取り組んでいます。

①営農指導事業

販売農家の育成を目指し、市独自の営農指導員2人を配置し、高齢農業者、新規就農者、兼業農業者に対する野菜の栽培、出荷などの指導を行っています。

栽培指導

ナス、トマト、ピーマン、ひろしま菜、エンドウ、ホウレンソウ、青ネギ、スイートコーン、カボチャ、キャベツ、大豆、モモ など

出荷調整・指導

生協ひろしま、JA庄原、直売所

②食農教育事業

農業後継者育成の一貫として、市内の小・中学校を対象に農業体験にかかる経費の一部を助成しています。

事業実施

小学校4校、中学校2校
米・野菜・そば作り、和牛飼育、果樹栽培体験など

③繁殖用和牛共同飼育事業

(共同牛舎、和牛導入に対する助成)

繁殖用和牛の増頭を目的に、3戸以上の農家が共同で和牛飼育を目指す場合、牛舎建設、和牛導入に対する補助を行っています。

本年度は、口和地区と東城地区の2団体が共同牛舎を建設し、うち1団体が和牛を導入する予定です。昨年度実施した東城町塩原地区と合わせ、3団体が共同飼育を始めるとして注目されています。

事業実施

口和地区共同牛舎建設1カ所、東城地区共同牛舎建設および和牛導入1カ所

④農産物販売システムの整備

平成19年11月末、市内全域を対象に、野菜など農産物の集出荷システムの整備が完了しました。この集出荷システムを活用し、公社直営の直売施設「比婆高原発ヒバゴン生鮮便江波店」を中心に、都市部での農産物販売の拡大に取り組んでいます。

・出荷者登録数 約3000人
(平成19年11月末現在)

・月平均販売額 約300万円
(江波店ほか)

⑤新規作物開発事業

ニンニク

平成18年度、フクチ系ホワイトニンニクの栽培に取り組み、市内全域で栽培が可能なが実証されました。今後、栽培面積の拡大、販路の確保に本格的に取り組めます。

・栽培農家数 10戸

・収穫量(見込み) 180kg

エゴマ

平成19年5月に開催した第8回全国エゴマサミットを契機に栽培推進が行われ、前年を大きく上回る栽培が行われています。引き続き栽培面積の拡大に努めるとともに、販売促進に向けた取り組みを推進します。

・販売農家数 13戸

・取引量 688kg
(平成19年12月末公社取扱分)

⑥販路拡大・イベント出展業務

市内、各地域特産品のPRを目的として次のイベントへ出展しています。

・ひろしまフードフェスティバル (2日間)
・ひろしま夢ぷらざフェア(12日間)

今後の課題

農業自立振興プロジェクト事業を推進し、「儲ける農業」を目指すには、農地を有効活用し、個別農家や集落営農、住民自治組織など、地域と一体となった農産物の生産体制を構築していくことが必要です。

市は、今後も農業の形態に応じて継続的、安定的な収入が得られるよう営農指導体制の充実や、(株)庄原市農林振興公社による農産物の販売強化、新規作物の導入など、積極的な取り組みを行っています。

問い合わせ

農林振興課活性化係

☎0824731227

☎0824725090

(FAX兼用)

※公社の事務所が移転しました。

住所

庄原市川手町23番地



プロジェクト **03**

観光振興・定住促進 プロジェクト

観光振興編

補助金を活用し農家民宿

補助金で夢を実現

わたしたち女性三人で田舎料理レストラン「りんご畑」の共同経営を始めて3年になります。



●インタビュー
長瀬利子さん・前田万里子さん
(高野町)

お客さんから「泊まってのんびりしたい」という要望が多く、農家民宿をしたら、もっと多くの人に来てもらえると考えていました。そんな時、広報紙で起業支援補助金が創設されたことを知りまし。対象事業に農家民宿も含まれており、この補助金を活用すれば始められるかもしれないと、昨年6月から本格的に検討を始めました。

農家民宿で心配だったのが、食事とお風呂です。家庭で食事とお風呂を提供すると、その手間や台所などの改修費は莫大なものがかかりました。そこで、朝・夕の食事は「りんご畑」で、お風呂は「たかの温泉」を使用し、家庭では素泊まりのみというシステムを考え、それぞれの家庭で始めることにしました。

起業支援補助金の交付決定を受け、家の水周りや客室を改修し、宿泊者用に8畳の部屋を2つ設けました。保健所と消防署の許可を取り、昨年10月末から開業。マスコミに取り上げられたこともあり、開業当初から予約が相次ぎ、「田舎のおばあちゃん家に泊まりに来た感じ」などとお客さんの

反応もよく、口コミでお客さんが増えていきます。お客さんは若い人から年配の人まで幅広く、農家の雰囲気や肌で感じたり、家の周りを散策したり、農家そのものを楽しんでリフレッシュされています。

家族を含め受け入れる側も、過度なもてなしは考えず、親戚が帰ってきたような気持ちで、お客さんの要望に沿うように接しています。昼間、家に一人でお客さんが来られることで生活に張りやがで、お客さんとの会話を楽しんで若返っています。

素泊まり方式で成功

「また泊まりに行きます」というお客さんからの手紙や年賀状、そして素泊まりということでもわたしたちの負担も少なく、本当にやって良かったと思います。ビジネスとしての魅力も十分あり、素泊まりという方法なら、他の農家の皆さんも気軽に農家民宿ができる、周りの皆さんに「やってみたい？」とお勧めしています。



たかの温泉「神之瀬の湯」

この補助金がなければ、農家民宿を始めないと思います。このような補助金を創設されたこと、そして市役所の皆さんには、さまざまな相談のついでにいただき感謝しています。補助金を受けた以上、市のモデルとして他の見本となるようがんばらなければいけないと責任を感じています。

これからの、どんどん高野町へお客さんを呼び込み、各スポットをつなぎ、まちを元気にしたいと思います。

※起業支援補助金の概要は27ページに掲載しています。

取り組みと成果

感動！観光振興プロジェクト 市民が儲ける観光を目指す

「感動！観光振興プロジェクト」は、市の強みである農村文化・農林業資源を含め、さまざまな観光資源を見つめ直し、観光客が楽しめる魅力づくりとサービス化を図ることで、「泊まる」・「食べる」・「買う」・「乗る」など、観光消費額を増やす「市民が儲ける観光」を目指して取り組んでいます。

①市民の起業(スモールビジネス)の支援

農家民宿など観光の魅力づくりと「市民が儲ける観光」を促進するため、本年度、起業支援補助金を新設し、農家民宿や農家カフェ、観光釣り場やミニ美術館とカフェなど5件を採択しました。

②起業促進の環境整備と情報発信

起業意欲の向上を図るため、「庄原の食を楽しむ起業に学ぶ会」を開催しました。また、旬の観光情報を発信するため、「食彩館」ようばらゆめさくら、「遊Y O U さろん東城」、「リストアステーション」に設置した大型ディスプレイによる一体的な観光インフォメーションやホームページの充実、各種情報誌への情報提供などを行っています。

③儲ける観光の舞台づくり

儲ける観光の成果を発揮する舞台として「2010庄原さつやま博(仮称)」の開催を目指しています。本年度は、観光協会や団体などへの啓発と、開催に向けての調査検討を行い、実験的に広島駅発の庄原市観光バスツアーを企画し、2日間で95人が参加しました。



食を楽しみ起業に学ぶ会(西城町「やませみ」)



広島駅発の観光バスツアーで備北丘陵公園へ



体験プログラムを通じて都市住民と交流する収穫祭

今後の課題

観光は、すべての地域資源をつなぐ総合産業であり、従来からの観光資源や観光施設のさらなる魅力づくりと、市民が主役の「儲ける観光」の仕組みづくりが必要となっています。

来年度は、積極的に都市からの集客を図るため、新たなバスツアーや農村・農林業資源を活かした体験プログラムの充実を図ります。また、各地域の観光事業の実施主体である観光協会や観光協会連合会と連携し、さらに集客が図れるよう庄原市全体の観光事業としてプロデュースする機能の構築を目指し、実験的な事業実施に取り組めます。

問い合わせ
商工観光課商工観光係 ☎0824-73-1179

定住促進編

定住の取り組みを地域から

敷信自治振興区

市の課題である少子高齢化・過疎化は、自治振興区でも深刻な問題であり、少しでもその解決のきっかけづくりになればと、本年度、市の自治振興区活動促進補助金を活用して「定住促進事業」に取り組みました。

一つは、敷信自治振興センターに「定住窓口」を設置し、事業実施に向けた事務的作業はもちろん、Uターン対象者への情報発信や相談を受け付けています。

二つ目に、区内の自治会ごとに「Uターン対象者名簿」を作成しました。第1次の調査で、約200人が対象者として登録されました。

三つ目に、登録された皆さんに、

●インタビュー

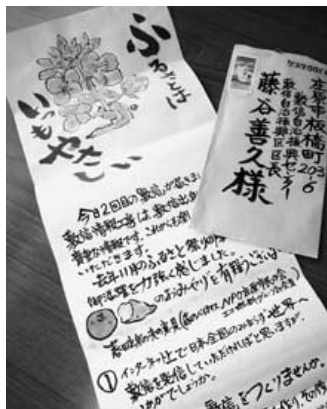


区長 藤谷善久さん (板橋町)

区の広報紙「敷信情報工房」や、市の「広報しょうばら」を発送しました。本年度は、3回発送する予定です。
四つ目に、登録された方のうち、関西以西に在住の約160人に対して、「敷信ふるさと祭」の開催案内を行い、招待状と一緒に「おみやげ、お食事券」を送付しました。お食事券の裏面には、使用された方の住所や名前などを記入していただき、当日来場された方の確認と、今後の交流のきっかけづくりを狙いました。当日は、約30人が参加され、地域の方々と交流を深めることができました。
参加された方からは「本気で庄原に帰ろうかね」「来年はふるさと祭でクラス会をしよう」などの言葉をいただきました。また、その後も「ありがとう」の言葉を添えた手紙や電話をいただき、この事業の確かな手応えを感じています。



敷信ふるさと祭で「ふるさとPRコーナー」を設置



出身者からお礼の手紙

ンしたいと思うきっかけづくりとなるよう取り組んでいきます。

取り組みと成果

待ったとるよ！庄原定住プロジェクト
人口減少の歯止めに向けて

市の人口は、高度経済成長期における若年層の流出以後、減少傾向が続いています。人口の減少は、地域活力の低下に直接的な影響を及ぼすことから、定住施策を積極的に推進し、一定の人口を維持・確保するため、次の4つをはじめとするさまざまな事業に取り組んでいます。

① 定住相談支援事業

本年度から商工観光課に定住推進係を設け、定住希望者や市民の皆様からの問い合わせへの対応、空き家情報をはじめ帰郷や定住に必要な情報の収集・発信を行っています。

定住に関する問い合わせは、平成18度の51件から148件に増加するとともに、空家バンクの活用などで9世帯17人が新たに庄原市へ定住しています。

また、晩婚化・少子化に対応した「男女の出会いサポート事業」や、帰郷希望者の地元就職を促進するため「合同企業説明会」などを開催しています。

・市が仲介した定住者 (9世帯17人)

・男女の出会いサポート事業 (参加者延べ95人・結婚3組)
・合同企業説明会 (参加企業18社・参加者28人)
※実績は平成19年12月末現在

② 交流・体験・情報発信

各種メディアを通じての情報発信や自治振興区などへの広報紙の提供のほか、庄原市出身者との絆と交流を深め、Uターンを促進するための「庄原応援団(エールしようばら)」の組織化や、庄原を積極的にPRしてもらう「庄原市ふるさと大使」事業を進めています。

③ 定住促進のための起業や住居の支援策

「起業支援補助金」や、空き家の有効活用を図るための「空き家バンク」、「空き家活用改修費助成事業」を創設しました。増えつつある空き家を希望者へ素早く提供できる仕組みづくりを考える「空き家活用研究会」で、民間事業者との役割分担について調整しています。

④ 自治振興区による定住促進

地域出身者に対して、地域からのメッセージや情報を発信したり、さまざまな交流を実施することで、出身者の皆さんがふるさとへの思いを募らせたり、Uターンしたいと思うきっかけづくりとすることを目的に、自治振興区による定住促進を進めています。

本年度から、「自治振興区活動促進補助金」に新たに「定住促進事業」を設け、自治振興区が実施する定住への取り組みを支援しています。

・事業実施

- 敷信自治振興区 (庄原)
- 金田自治振興区 (口和)
- 三河内自治振興区 (比和)

今後の課題

定住推進の視点としては、「帰ってこいや、待ったとるよ」という地域の想いを力に、生まれ育った「ふるさと」への帰郷を促すUターン施策に重点を置いています。特に、地域と地域出身者との顔の見える関係づくりや、交流の仕組みづくりが可能な自治振興区との連携と支援を積み重ねていくことが重要です。

そのほか、企業訪問や企業誘致活動、企業説明会の実施など、引き続き、働く場の確保など生活の経済的基盤である就労に重点を置いた施策を推進していきます。

問い合わせ

商工観光課定住推進係 ☎0824-73-1178
自治振興課自治振興係 ☎0824-73-1209



第1回合同企業説明会 (平成19年11月)

あこがれの田舎生活がスタート

宮本武俊さん一家

昨年10月、ゆったりとした田舎での生活がしたくて神奈川県から西城町に引っ越してきました。こちらでは、知人もなく身近に相談できる人がいなかったため、市役所に定住相談窓口があり、さまざまな面で助かりました。現在は、西城町森林組合に就職し、市街地の空家を借りて生活しています。将来は、子どもや犬がのびのびと遊べて、畑があるような家に住みたいと思っています。



妻の香さん、長男の晴くん、次男の風くん